

今週（6月24日から6月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週20日の国債の大量償還・利払いを受け、日銀当座預金残高は410兆円台と高水準で推移した。無担保コールO/N物は、邦銀勢を中心に週を通して▲0.08～▲0.06%のレンジでの出会いと、弱めの地合いで推移した。そうしたもとの、無担保コールO/N物加重平均レートは日を追うごとに低下した。28日は期末要因から調達ニーズが減退し、▲0.086～▲0.075%のレンジでの出会いとなった。ターム物に関しては、6/28エンドの期日物で▲0.07%近辺、7月スタートのショートターム物で▲0.07～▲0.05%近辺での出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは28日に2W物・15,000億円がオファーされ、655億円（期落ち額593億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは投資家・業者共にオファーニーズが厚く見られたことでレートは安定的に推移し、▲0.09%前後の出会いが中心となった。

週初24日はC/N▲0.095%の出会い、T/Nは▲0.095～▲0.09%の出会い。翌25日以降も同水準の出会いを続けた。27日のT/Nは受渡ししが6月末にあたることからオファーサイドはレートを下げて様子見姿勢となった。▲0.115%とレートを下げた動き出しとなったものの、出会いをつけた後はオファーが厚く見え始めたため、レートを急激に上げて▲0.08%程度までの出会いとなった。週末の28日は27日の動きでレートの急上昇が見られたことから、一転してビッドサイドが様子見姿勢に転じたことで、週前半よりもレートを上げて▲0.08%前後の出会いに終始した。

SCについてはビッドが目立った銘柄は5y 136～139、10y 336～343、352～354、30y 59～62、40y 11などにビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、業者の在庫の積み上がりが見られる中、全般的に閑散なマーケットとなった。

25日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。応札額が22,566億円と多く、平均落札利回較差+0.023%、按分落札利回較差+0.017%と、在庫調整の売りから弱めの決着となった。

28日実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.115%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.1138%、按分落札利回▲0.1042%となった。償還日が9月30日であるため、四半期末越えの担保として使えないことに加え、在庫の積み上がりもあってか、マーケットの慎重姿勢を反映して弱めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.107～▲0.106%出会いと按分レート近辺で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、月末週にあたり商社・鉄鋼・機械・石油・ゴム・海運・食品等幅広い業態から大型案件が見られ、月末スタートの発行は8,500億円程度となった。1日スタートは、期明けの発行再開の動きから1兆2,000億円程度と週を通して活況なマーケットとなった。しかしながら、四半期末要因から一時的に残高を解消する先も多く、週間発行総額2兆8,000億円程度に対して週間償還総額は3兆5,000億円程度と7,000億円程度の大規模な償還超となった。市場残高については27日時点で20兆2,896億円と、先週末対比3,000億円程度の減少となっている。企業の発行意欲は強く、6月末の市場残高は前年比では2兆円程度の増加が見込まれる。発行レートは、四半期末で発行残高を減少させる発行体が多く、ディーラー・投資家の玉確保ニーズの強まりから月末越えのショートターム物では一部で強含む銘柄も見られたが、概ね浅いマイナスから0%の狭いレンジで推移した。

25日にはCP等買入オペが事前予想通りの2,500億円でオファーされた。特定の銘柄が、多く買入対象となったことから、按分・平均ともにレート上昇が予想される中、按分落札レート▲0.003%、平均落札レート0.002%と平均レートは予想通り前回（▲0.002%）比で上昇したが、四半期末の玉確保の動きから売却ニーズは限定的であったと見られ、按分レートは前回比横ばいにとどまった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
6/24（月）	21,285.99	△ 0.156	107.40	△ 0.066	△ 0.088	4,103,100
6/25（火）	21,193.81	△ 0.157	107.00	△ 0.066	△ 0.088	4,106,900
6/26（水）	21,086.59	△ 0.150	107.36	△ 0.068	△ 0.087	4,101,200
6/27（木）	21,338.17	△ 0.145	108.08	△ 0.070	△ 0.102	4,110,700
6/28（金）	21,275.92	△ 0.165	107.68	△ 0.076	△ 0.081	4,107,900

来週（7月1日から7月5日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/1 (月)	6月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 6月の消費動向調査(内閣府 14:00)				5月の米建設支出 6月のISM 製造業景況指数
7/2 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 6月のマネタリーベース(日銀 8:50)	10Y 21,000億円 7/3発行			
7/3 (水)	広島県金融経済懇談会において布野審議委員講演 7月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				5月の米貿易収支 5月の米製造業新規受注・出荷・在庫 6月のISM 非製造業景況指数
7/4 (木)		30Y 7,000億円 7/5発行			New York祝日(Independence Day)
7/5 (金)	6月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 5月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 5月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 43,300億円 7/8発行			6月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/1 (月)	600	▲ 29,600	▲ 29,000	国債買入 全店共通	▲ 600	7,800 700	7,900	▲ 21,100	TB3M発行▲42800償還41800 2Y発行▲20000
7/2 (火)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	
7/3 (水)	0	▲ 50,000	▲ 50,000				0	▲ 50,000	法人税・消費税 年金保険料 国立大学法人運営費 10Y発行▲21000
7/4 (木)	0	▲ 1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
7/5 (金)	0	▲ 5,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	恩給 30Y発行▲7000
週間合計	600	▲ 91,600	▲ 91,000	—	▲ 600	8,500	7,900	▲ 83,100	

7/1は日銀予想、7/2以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、3日の法人税、年金保険料揚げによる資金不足が予想される。期末要因が剥落するものの、調達ニーズは限定的であるため、無担保コールO/N物加重平均レートは低位で推移するものと見込まれる。レポ市場は、引き続き投資家・業者のオファーニーズが安定的に見られることが予想され、国債・短国の発行も予定されていることから、レートは横ばいからやや上昇基調を取ると考えられる。短国市場は、5日に3M物の入札が実施予定となっている。償還日が9月末越えとなることから、レート水準を含めて市場動向が注目される。CP市場は四半期末要因の剥落による発行再開の動きから、徐々に市場残高は膨らんでくると予想される。発行レートについては引き続き浅いマイナスから0%近辺の狭いレンジで推移すると見られる。

主要なイベントとしては、国内では1日に6月調査の日銀短観の公表、海外では5日に6月の米雇用統計の公表などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入